









大岩山熊野大権現堂

旧、権現堂は平成五年京が峰にて落雷に合い、現在の御堂は平成十七年に再建されたものです。

熊野三山の本地佛は（本宮―阿弥陀如来）（新宮―薬師如来）（那智―観世音菩薩）であつて、当山大岩山の不動和讃、並びに眷属、御名号に唱えられる熊野大権現とは不動明王に向かつて右側に立山権現・密教の阿弥陀如来として（平安末期）追列されたものである。富貴、寿命神、温泉守護神、出世、家内繁栄の守護として尊崇されている。

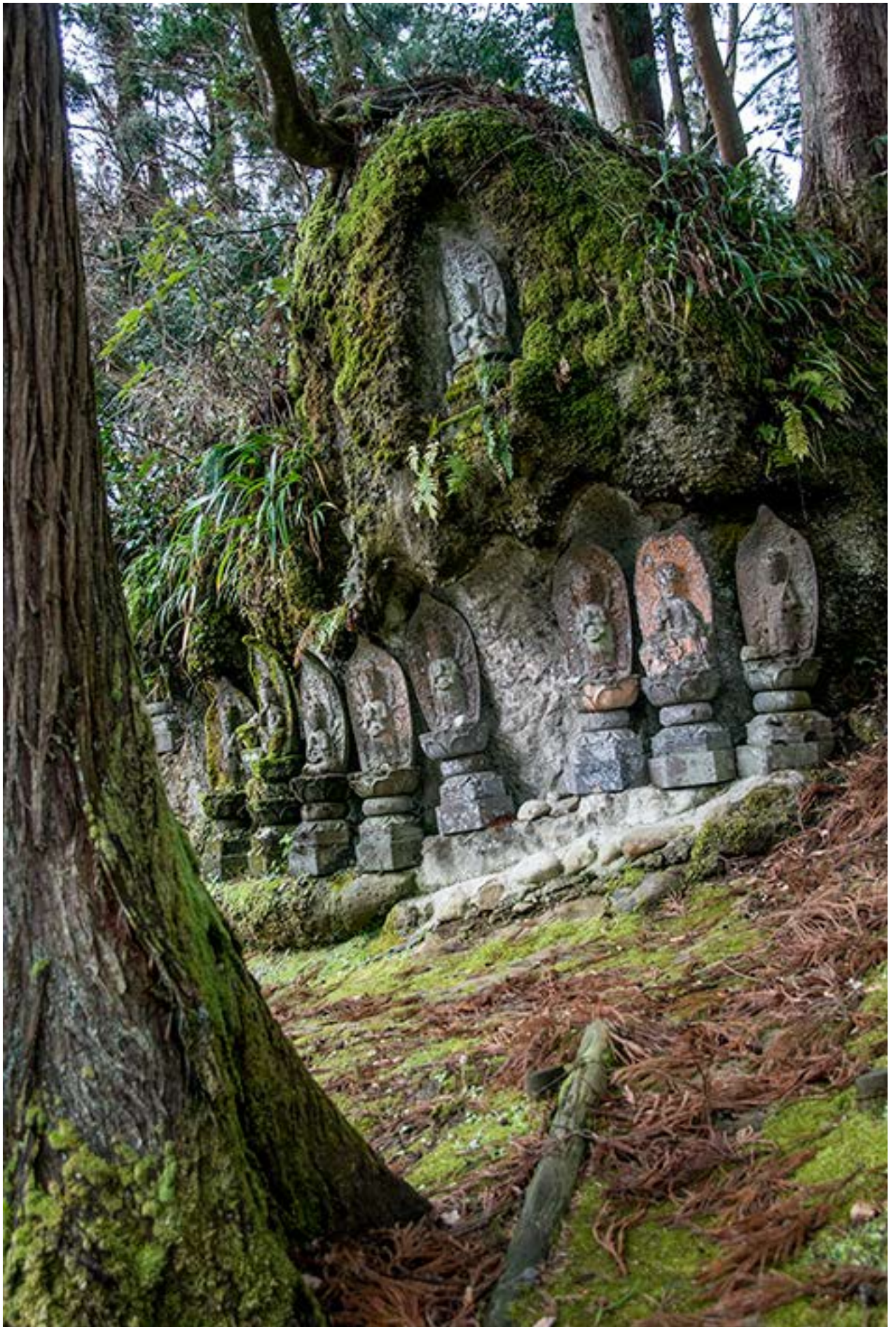
祭礼日（毎年四月十日金毘羅宮祭と共に）行なわれます。











大日堂

建築様式 八角円堂、法隆寺夢殿、興福寺北円堂と同形式。組物 平三斗、二軒繁垂木、銅板葺。

建築年代 昭和五十年
設計監修

棟 梁 東京国立文化財研究所
修復技術部長 伊原恵司
宮大工 松原仙之助

大日如来は当山本尊不動明王の親佛であって、天地の恵みをすべての人に平等に与えられるとされています。

御眞言 金剛界 オンバザラタトバン
胎蔵界 ノウマクサンマン
アピラウンケン







